

土地改良事業計画概要書
(区画整理)

県営蔵後余郷入東部地区土地改良事業

第1 当該土地改良事業の目的

本地区は、茨城県稲敷郡美浦村の北東部に位置し、北部が霞ヶ浦に面した広大な水田地帯であり、水稻を中心とした営農が展開されている。

これまでに地区内では、担い手への農地集積が進み経営規模の拡大が進んでいるが現況の農地は昭和50年代に区画整理が行われているものの、一部区画は小区画であり、道路も狭いことから、大型機械導入及び効率的な営農の妨げとなっている。また、用排水施設は老朽化が進み水管理や維持管理に労力を費やしており、営農の支障となっている。

このため、本事業により畦畔除去による大区画化や用排水施設を整備することで生産性の高い優良農地を確保するとともに、担い手への農地集積を図り、本地域の豊かで競争力ある農業の実現に資するものである。

第2 当該土地改良事業の施行に係る地域の所在及び現況

1 地域の所在

茨城県稲敷郡美浦村大字大山

2 現況

(1) 地形

茨城県稲敷郡美浦村の北東部に位置し、北部が霞ヶ浦に面した広大な水田地帯であり、標高YP+2.0m～YP+3.4m程度、地形勾配は1/1,000～1/100程度である。

(2) 土壌

本地域の土壌タイプは、灰色低地土壌及び粗粒灰色低地土壌である。

(3) 気象

本地区の気象状況は、龍ヶ崎観測所の資料（昭和57年～令和3年）によると下表の通りである。

気象項目 \ 期間	かんがい期 5月～8月	非かんがい期 9月～4月	平均	備考
平均気温（℃）	22.9	10.7	14.7	
平均降水量（mm）	124.1	106.4	112.3	
平均降水日数（日）	9.3	7.9	8.4	

(4) 水利状況

地区内の用水は、霞ヶ浦を用水の主水源としており、地区の大山用排水樋管より取水し、1号ポンプによりかんがいされている。霞ヶ浦から取水した用水をパイプラインにより配水を行い、各耕区に配水している。

地区内の排水は、堤脚水路を経由して霞ヶ浦に自然排水、機械排水している。

排水路は、ほとんどがS54～56年にかけて団体営大山地区において整備された溝形柵渠（A型）の水路であり、水路断面は経年変化で法面が崩れ、底面に土砂が堆積している。

(5) 営農状況

本地区は、立地条件等を活かし、水稻を中心とした農業を展開している。

第3 当該土地改良事業の基本計画

1 一般計画

(1) 土地利用計画 (単位: ha)

土地利用区分 区分	田	畑	小計	その他	計	備考
現 況	29.0	0.0	29.0	3.4	32.4	
計 画	29.0	0.0	29.0	3.4	32.4	

※ その他は、道路、水路等の非農用地を示す。

(2) 作付計画

項目 地目別	作物別	作付面積 (ha)			作付率 (%)	
		現況	計画	増減	現況	計画
水田	表作 水稻	27.6	26.4	△ 1.2	97.2	93.0
	表作 秋冬ねぎ	0.8	1.0	0.2	2.8	3.5
	表作 大豆	0.0	1.0	1.0	-	3.5
	裏作 小麦	0.0	1.0	1.0	-	3.5
計		28.4	29.4	1.0	100.0	103.5

※ 作付面積は本地面積である。休耕地は作付面積に含まない。

2 主要工事計画

(1) 区画整理

全工区	整地工 (畦畔除去)	100×100	11.8ha
	〃	100×100以下	17.2ha
	計		29.0ha

3 環境との調和への配慮

希少種が確認された場合、それらの生物を一時的に工事の影響範囲から隔離し、整備後の
流末水路等に放し保全する。工事の際に一時的に隔離することで、整備後の流末水路等に生息環境を
移し保全することができる。また、工事施工にあたり、低振動・低騒音・排気ガス対策型の施工機械を
積極的に導入することで周囲への影響を最小限に抑える。

第4 換地計画の要領

該当なし

第5 費用の概算

工事費	19,000	千円
工事雑費	400	千円
事務費	900	千円
合計	20,300	千円

第6 事業の効果

効果項目 区分	年総効果 (便益) 額 (千円)	年総増加農業所得額 (千円)	備考
作物生産効果	-	-	
営農経費節減効果	1,912	1,912	
維持管理費節減効果	-	-	
国産農産物安定供給効果	-	-	
	-	-	
計	1,912	1,912	

総便益額 (現在価値化) ① 33,221 千円

総費用 (現在価値化) ② 15,548 千円

総費用総便益比 ①/② 2.13

第7 事業施行を数区に分けるときは、その旨及びその理由

該当なし

第8 他事業との関連

該当なし

第9 計画概要図

別添のとおり